

校名：長崎大学教育学部附属小学校

所在地：〒850-8131 長崎市文教町4番23号 電話番号：095-819-2271

記載日：平成28年 5月 18日

記載者：長田 誠

記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

創立139年目。長崎市北部の中心地に位置し、近隣には幼稚園、小中学校、大学がある文教地区である。全校児童570名。児童は市内の広域より通学しており、公共交通機関を利用している子が半数近くいる。

県内外の複式教育のニーズに応えるべく、平成16年度より複式学級を開設している。単式学級が各学年3学級と複式学級が1・2年，3・4年，5・6年の各1学級ずつある。

研究では、授業を中心とした問題解決的な学習への取組を長年行っている。最近では、隣接する附属中学校と小中連携の教育を研究し、毎年行う研究発表会では、今年度3回目の合同開催となる。

長崎県で唯一の国立附属学校として、地域や県内各地の学校から期待をされている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 卒業後、クラシック等の作曲家としての道を歩み、現在国立大学教育学部で准教授として活躍している。
- ② 卒業後、当時から習っていた柔道を極め、世界選手権で優勝し、次のリオオリンピックの代表になっている。
- ③ アナウンサーとなり国内外で活躍している。
- ④ 外国でプロのオペラ歌手として活躍している。
- ⑤ 国内でハープ奏者として活躍している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 本校出身の教職員については、毎年名簿を作成、更新している。その都度、現在の職場を尋ねるため、定年退職後も含めて近況を把握できている。
- ② 職業、住所、電話番号。情報は学校(本校)がっており、マル秘情報として取り扱いに十分注意している。
- ③ それぞれが、公立学校で管理職をしたり要職に就いたり、教育委員会の指導主事等になったりして活躍している。
 - ・公立学校で多数が校長または教頭を務めている。
 - ・県教育委員会義務教育課や課長、人事管理監、係長、指導主事などを務めている。
 - ・県教育委員会生涯学習課で課長、係長、指導主事などを務めている。
 - ・市町教育委員会で部長、課長、係長、主査、指導主事を務めている。
 - ・私立大学にて教授、准教授を務めている。
 - ・国立大学にて教育実習アドバイザーを務めている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 県教育委員会と連携した学力向上のための授業研究会・・・平成26年度及び27年度、長崎県教育委員会主催の標記研究会で、本校が会場として授業を公開した。この研究会では、全国学力・学習状況調査や県学力調査の結果を踏まえ、どのような授業を行えば学力の向上につながるのかを提案するものである。県内各地より多くの参観者が来校し、授業参観及びその後の授業研究会に参加した。
- 大学との共同研究・・・各教科等单位で、大学教員と本校教員が共同研究を行っている。
＜平成27年度実績＞
 - ・ 小学校における集団宿泊活動を生かした「木育」授業の開発と実践・・・本校4年生の宿泊体験学習（野外活動）と関連させた取組で、大学教員と本校職員が、国立諫早少年自然の家と連携して進めた。
 - ・ 実生活に生きる言語能力を育成する小学校国語科の授業づくり・・・時期学習指導要領改定に向けて授業づくりの方向性について検討した。
 - ・ 科学的な資質・能力の系統的育成を目指した理科授業の研究・・・教科書の分析を通して理科における育成すべき資質・能力の系統性を検討し、授業のあり方を授業研究等を通じて探究した。
 - ・ 研究をこどもたちへ～理科教材の先進化による授業の革新～・・・大学教員の先進的な研究分野から題材をとり、大学と本校教員とが共同で教材化、授業化を図った。
- 大学と連携した発達障害のある可能性のある児童への支援・・・平成26年度～28年度(予定)文科省の委託研究事業「発達障害のある可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業(支援ラボ)」を行っている。平成26年の10月に全保護者に支援ラボ開設と利用申し込みに関するチラシを配布し、保護者より相談や申し込みのあった児童については11月より支援ラボを利用開始。平成27年度については4月にチラシを配布し、新たに申し込みのあった児童も支援ラボでの支援を開始。約10名の児童及び保護者が申し込み、大学教員、支援アドバイザー(大学と学校をつなぐ役割)、医療機関や児童相談所等の外部機関と本校教員が連携し、子どもの健全育成を図っている。
- 地域学校等への貢献・・・県内各地より、本校教員に対して各教科等の講義や出張授業の依頼がある。その要請に対してはできるだけ応えるようにしている。
＜平成27年度実績＞
 - ・ 長崎市立小学校教育研究会算数研究部での算数科の授業
 - ・ 佐世保市立小学校教育研究会算数研究部での算数科の出張授業及び講義
 - ・ 平戸市立根獅子小学校での算数科(複式学級)の出張授業及び講義
 - ・ 平戸市立平戸小学校での算数科の出張授業及び講義
 - ・ 佐世保市立相浦西小学校高島分校での国語科(複式学級)の出張授業及び講義

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- ・ 小学校教育の理想を求めて実践しているモデル的学校である。特に複式教育については、本県だけでなく、国内に複式教育の理想的な学びの姿を示している先進校である。
- ・ 授業をはじめとする研究面で頼りにされている学校である。先進的な授業を公開したり、公立学校や市町単位の教育研究会等で、出張授業や講義を依頼されたりするなど、理論と実践の融合という面において、本県の教育をリードし続けている。
- ・ 教育実習を通して、本学の教育学部生に、教師としての実践的な知識や技能を着実に身に付けさせることができる機関である。4週間にわたる厳しくも温かい本校教職員の指導の下、授業づくりや学級経営について習得させることで、優秀な新任教師を多く輩出している。
- ・ 教師の資質の向上のために貢献している学校。「遊学研修」として公立学校職員の体験研修の場として受け入れを行っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

・ 本校は、複式教育の理論と実践の両面で先進的な取組をしている学校である。長崎県下の学校からは、複式教育の理論についての講義や、出前授業の実施についての要請が年間に多数寄せられる。また、九州・沖縄や山口、島根などの学校や県市町教育委員会からお尋ねがあったり、授業実践についての資料提供の依頼があったりする。これらの一つ一つに全力をもってお答えしている。

本校が存在しなければ、複式教育の継続的な研究機関が1つ減ることになり、その影響は本県のみにとどまらず、複式教育の今後に多大な悪影響を及ぼすであろう。

・ 教育実習においては、大学教育学部の附属校として、大学学生に対し、教育実習期間中のみならず、1年生での参加観察実習、2年生での事前指導など、本校での学びが大学のカリキュラムに位置付けられ、大人数の学生を受け入れ、成果を上げている。例えば、これらの大人数の学生を地域公立に振り分けてお願いすることは困難であろう。

・ 「遊学研修」として公立学校の職員が数日間本校にきて学級に配属され担任と1日の行動を共にしたり、10年経験者研修における異校種体験研修での受け入れを行ったりと、県内公立学校における教員の資質向上のために積極的に貢献している。

・ 問題解決型学習を通して、子どもの学力向上を図っている。全国学力調査では、例年、全国平均をはるかに上回る正答率を示している。他附属の平均と比較しても、同等かそれ以上の成績を挙げている。この結果を導く大きな要因として、本校が子どもの学習意欲を喚起することに力をそそいでいることが挙げられる。特に必要感をもって学ぶことができるよう問題や活動を工夫していることが、功を奏している。本校の子どもが意欲的に学習に励む姿は、研究発表会など学校公開の場において、どの参観者からも賞賛をいただいているところである。このように本校は、子どもが生き生きと学ぶことこそが学力を向上させるために最も大切であることを、日々のたゆまぬ実践を通じて国内に発信し続けている。